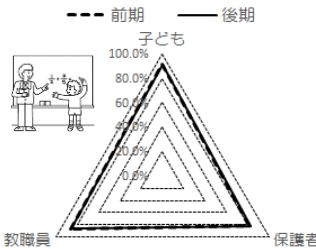


★H30★学校評価アンケート★前期後期の結果から

学校の授業がよくわかる。

	前期	後期
子ども	91.2%	91.5%
保護者	81.0%	82.8%
教職員	86.2%	85.2%



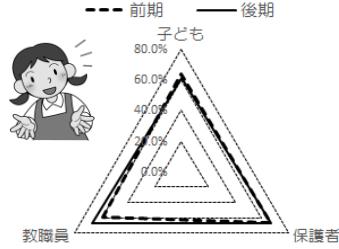
◆後期は学習内容が次の学年に向けてステップアップしていきます。よくわかると回答した子どもの割合は前期に比べると僅かに増加しており、高い水準を保っています。

◆保護者の評価はわずかに高まっています。家庭で子どもたちが宿題に取り組む様子やテストの結果などから、学習内容をよく理解している姿を実感されているのだとうなづけられます。

◆今後も引き続き、子どもたちがわかる喜び、できる喜びを感じることができるように授業づくりをめざしていきます。

授業中、自分の思いや考え方を発表している。

	前期	後期
子ども	63.8%	61.2%
保護者	66.3%	66.9%
教職員	58.6%	66.7%

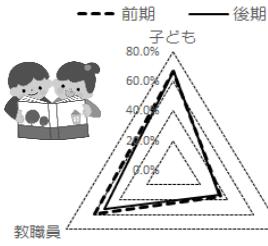


★アンケートの集計結果から、全体的な課題がより明確になってきました。学校では全体的な課題を意識しながらも、アンケートとともに、ひとりひとりに対応した支援指導を続けていきます。ご家庭でも、この機にお子さんの様子をごらんになって、よりよい子育ての指針にしていただければと思います。

★グラフのポイントは、「よくできている」「できている」をあわせたポイントです。

進んで読書をしている

	前期	後期
子ども	66.7%	67.4%
保護者	35.0%	34.1%
教職員	58.6%	51.9%



◆木曜日はお昼10分間、それ以外の曜日には朝10分間の読書タイムを設定しています。また、1～3年生では月に2回、読み聞かせサークル「たんぽぽ」のみなさんに読み聞かせをしていただいているです。

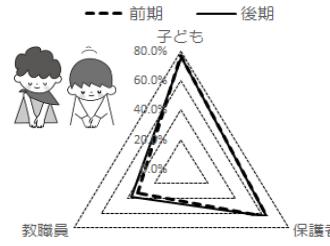
◆読書タイムには、静かに集中して本を読む姿が見られますが、それ以外の時間で読書の習慣が確立している児童は少ないです。

◆保護者の評価が低いことから、家庭で読書をする子どもは少ない傾向です。

◆積極的な図書室の利用や学級文庫の充実を図ることで読書環境を整え、本が好きな子どもを育てていきたいと思います。

自分からあいさつをしている

	前期	後期
子ども	77.2%	76.0%
保護者	64.3%	63.6%
教職員	32.1%	37.0%



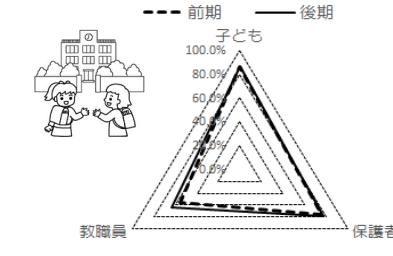
◆結果から、教職員が目指している子どもの姿と、子どもの中の意識に大きな差があることがわかります。

◆登校時、自分から「おはようございます」とあいさつできる子どもの姿もありますが、あいさつされても返せない子どもが多いです。

◆あいさつは人間関係を円滑にする生活スキルです。家庭・地域・学校で大人が率先してあいさつをしてお手本となる姿を示し、気持ちのよいあいさつができる子どもたちを育てていきたいと思います。

まわりの人を大切にした言葉づかいや行動をしている

	前期	後期
子ども	86.0%	86.8%
保護者	76.2%	77.8%
教職員	55.2%	63.0%



◆子ども、保護者、教職員でできていると回答した割合が前期に比べると増加しています。

◆12月の人権朝会、それを受けての各クラスの人権作文の取組で「言葉」について考えました。学校全体で自分が普段使っている言葉について考えたことで、言葉への意識も少し高まったのではないかと考えられます。

◆場面場面に応じた適切な言動について、その都度、具体的に学ばせる必要があります。道徳の学習、また学校生活全体を通して、人を大切にした言葉づかいや行動を意識させていきたいと思います。

地域の方からは、次のような評価をいただきました。（「よく出来ている」「大体出来ている」をあわせたポイント）

◆子どもたちは、まわりの人を大切にした言葉づかいや行動をしている。	42.9%
◆子どもたちは、自分からあいさつをしている。	37.5%
◆子どもたちは、安全に気をつけて遊んだり登下校したりしている。	25%
◆子どもたちは、地域やPTAの行事に参加している。	62.5%

地域の方の評価結果から見ても、子どもたちの言葉づかいや行動、あいさつに課題が見られます。地域の方からは、下校時の見守りをしてくださっている方に自分からあいさつしたり、積極的に話しかける児童も増えてきているとのご意見をいただきました。休日に清掃ボランティアを行っている方からは、「ありがとうございます」と声をかけてくれた児童がいてうれしかったというお声もありました。

また、登下校の様子、放課後の地域での遊び方にしても安全に気をつけているとは言えないという評価をいただきました。今後も、継続して安全指導を行い、家庭・地域と協力・連携し、子どもたちの安全意識の向上を図りたいと思います。